

日本山岳会 自然保護活動指針について

自然保護委員会

2004年9月、自然保護委員会発足40周年を期して上高地で開催された全国集会において、「日本山岳会自然保護活動のこれから」が真剣に論じられ、さらに集会に参加できなかった支部を含め全国各支部から多くの意見が寄せられました。自然保護委員会はこれらの意見を基に議論を重ね、それを「指針(案)」としてまとめ本年4月9日東京・高尾で開催された自然保護全国集会に提案しました。集会では自然保護活動の在り方について熱心な討議が行われ、その結果が新たな活動指針として参加者の合意を得、そのうえで4月理事会にて承認されました。自然保護委員会、全国各支部の自然保護委員そしてすべての山岳会会員が力を合わせ山の自然を護るための活動指針としてここにお示しします。

(篠崎 仁、山川陽一)

地球サミットと時を同じくして1992年に発表された「日本山岳会自然保護委員会の行動指針」は、先達の優れた先見性のゆえに今日なお陳腐化することなく正鵠

二十一世紀を迎え、地球環境問題は人類最大の課題として認識されるようになった。自然保護も生物多様性の保全、地球温暖化防止を意識して活動することが要求されている。かかる時代背景のもと、山地や森林が国土の7割を占めるわが国において、そこを活動のフィールドとする日本山岳会にとつては、山岳地域の自然保護は最重要課題のひとつである。

日本山岳会 自然保護活動指針

I. 理念
1. 地球環境を現在以上に悪化させてはならない。われわれは健全な生態系の維持や復元に積極的に貢献するよう努力する。
2. わが国の山々は、世界的に見ても多様な自然環境を含む貴重な存在である。これを破壊から守って永く後世に伝えることは、現在のわれわれ山岳人の責務である。

を射ている。100周年記念のこの年、この方針を自然保護委員会の行動レベルからさらに一段進めて日本山岳会が山の自然環境保全に積極的に取り組むためのアクティブな指針として、ここに「日本山岳会自然保護活動指針」を会員全員に対して呼びかけるものである。



2005年(平成17年)
5月号(No. 720)

社団法人 日本山岳会
The Japanese Alpine Club

定価1部 150円

URL ● <http://www.jac.or.jp>

e-mail ● jac-room@jac.or.jp

目次

日本山岳会自然保護活動指針	1
100周年ニュース	4
100周年記念事業 会員募金並び に有志募金のお礼とお願い	5
中央分水嶺踏査	6
福岡/関西/山梨	
講演会「登山とサプリメント」	8
英文誌『ジャパニーズ・アルパイン ・ニュース』第6号発行	9
Climbing & Medicine	44
図書受入報告	10
東西南北	11
分水嶺踏査余話/生きているものは美しい	
支部だより	12
秋田	
図書紹介	13
会務報告	16
会員異動	17
INFORMATION	18
ルーム日誌	19

▶ 日本山岳会事務(含図書室)取扱時間
月・火・木 10~20時
水・金 13~20時
第2、第4土曜日 閉室
第1、第3、第5土曜日 10~18時

3. 登山行為には時に自然破壊や干渉を伴う恐れがあることを認識し、行動にあたってはその最小化を常に心掛ける。

4. 山岳地帯およびそれにかかわる自然の乱開発を監視し、過剰な利便性の追及や経済優先政策によってわが国の山々が荒廃するのを防ぐため、積極的に行動する。

5. 海外登山に際しては自然環境の保全を基本的な条件とし、その国の文化を尊重し、また、人々の生活を乱さないように特に配慮する。

II. 活動の指針

1. 主たる活動分野

	指 針	範 例
(1) 乱開発・自然破壊等社会的問題に対する抑止力としての活動	支部のアンテナ機能の発揮、本部委員会との緊密な連携により問題が顕在化しない段階で対策を講じる。(要望書・意見書の提出など)。	- 上高地西穂ロープウエー計画 (1963) - 南アルプススーパー林道開発問題 (1982) - 長野五輪スキーコース 岩菅山開発計画 (1990) - 鳥海山南麓スキー場開発計画 (1997)
(2) 登山者自身に起因する環境問題	- 日本山岳会会員は、全員が基本マナーを守り自然保護の見識を持ち範を示す。 - オーバーユースによる環境破壊は対症的対策と併せて、一極集中を避ける根本対策が重要。	- ゴミとトイレ 『山のトイレマナーノート』の作成 - 登山道の荒廃 - 高山植物の踏み荒らし 早池峰インターハイ問題 (1999) - 入山規制
(3) 復元と再生の実践活動	- 自ら自然保護の主体者となって汗を流して行なう実践的活動。 - 活動の活性化、発展のために、JAC会員のみならず広く一般賛同者を包含した活動とする。	- 森林ボランティア活動 白神山地ブナ林再生事業 高尾の森づくり活動 猿投の森づくり活動 - 大山山頂の植生復元
(4) 啓発と教育	日本山岳会会員、一般登山者、青少年など対象別の活動を行う。 (印刷物の作成。シンポジウム、勉強会、自然観察会の開催。)	- 機関紙「木の目草の芽」の発行 - 会報「山」の活用 - 山のフィールドマナーノート、山のトイレマナーノートの発行 - 上高地インタープリター活動 (山の自然学研究会) - 公開シンポの開催 高山植物盗掘防止 (1998) - ホームページの活用 - フォーラムインの活動 - 子どもキャンプ

2. 活動をより活性化させるために

(1) 自然保護委員 (本部、支部)

は上記各活動分野にわたって、
“行動する委員”としての活動、
そしてそのための良識、行動力が
期待される。

(2) 各支部は、自然保護委員の選
定にとどまらず、可能な限り支部
自然保護委員会を構成して活動す
ることが望ましい。各支部は支部
独自の自然保護活動が尊重される
が、自然保護委員会 (本部) との
コミュニケーションを密にし、必
要に応じ連携プレーによって活動
の効果を高める。

(3) 内外の利害関係者が存在す
る場合でも、それによって行動が
制約されることの無いよう最大限
の努力を払う。

(4) 活動を効果的に推進するた
め、必要に応じ他の団体との共同
歩調も考慮する。

(5) 特定専門分野について継続
的な活動が必要な場合は、委員会
の組織を越えて広くJAC会員及
び会員外の賛同者や専門分野の知
識経験保有者を募ることも考える。
シンクタンク機能の検討も進める。
重要なことは、結果として日本山

岳会トータルとしての自然保護活
動の輪が広がることである。

創立100周年記念

「自然保護の集い」開催

4月9日、10日の両日、自然保
護委員会主催による日本山岳会創
立100周年記念「自然保護の集
い」が東京高尾で開催された。森
林と人間の共生“をテーマに掲げ、
初日は全国集会和記念フォーラム、
2日目は第5回高尾の森植樹祭が
盛大に行なわれた。

初日の会場は4月1日にオーブ
ンしたばかりの東京都の野外活動
施設「高尾の森わくわくビレッジ」。
午前中は、全国の自然保護委員並
びに自然保護に関心の深いJAC
会員諸兄弟を集めて「自然保護全
国集会」(70名参加)が行われた。
提示された原案をもとにこれから
の日本山岳会の自然保護活動のあ
り方について熱い議論が交わされ、
「日本山岳会自然保護活動指針」
としてオーソライズすることが満
場一致で確認された。(本文前掲参
照) 今後は、本指針に基づいて如
何に行動していくかが問われる。

午後のプログラムは、アトラク
ションのミュージカルと公開シン

ポジウムである。劇団ふるさとき
やらばん演ずるミュージカル「天
狗の隠れ里」は、地球温暖化と森
林のはたらきをテーマにしたもの
で、高尾の森づくりの会会員家族、
こどもキャンプ参加者、近隣の小
学生など会場を埋めた450名の
招待者に大きな感動を与えた。公
開シンポジウム(130名参加)
は、東大名誉教授岩槻邦男氏によ
る基調講演「人は植物とどう付き
合うか」に続き、パネルディスカ
ッション「これからの日本の森づ
くりのあり方を探る」が行なわれ、
藤本常務理事の名コディネーシ
ョンで、森林行政から生物多様性
に至る幅広い議論が会場の参加者
を交えて行なわれ大変有意義であ
った。

第2日は場所を裏高尾小下沢国
有林に移しての植樹祭である。総
勢450名のヘルメット姿の参加
者が10時には快晴に恵まれた小下
沢ベースのメイン会場を埋め尽く
した。今年用意された苗木は2千
本の広葉樹。全員がリーダーに引
率され急斜面の植栽地で心を込め
た植樹を行い、その後はベースに
戻ってトン汁に舌鼓を打つ人、今
まで植えた植栽地を訪ねる人など、

各自思い思いに爛漫の春を満喫し
た1日であった。

全国集会での平山会長挨拶要旨

「今日自然環境は大変な時期を
迎えています。そうした中で私達
はどうしたらいいのか、私は、ま
さに一人一人の自覚と行動が大切
だと思っています。今年日本山岳
会自然保護委員会は発足41年目を
迎えます。日本山岳会は、本来登
山の会なので、登山以外あまり関
心がなかったのも事実で、自然保
護などはとんでもないという時代
も長くありました。そうした中で
自然保護活動もようやく認知され、
これから育っていくわけです。育
っていく中で風当たりもあると思
いますが、皆さんが立派な成果を
あげて、日本山岳会の大きな仕事
となるような形で活躍いただき
たいと思います。ぜひ良い結果が
でるよう良い会議にしてください。」

最後に、本行事を開催するに当
たって準備に携わった多くの方た
ち、並びに、多大なご支援を頂い
た協賛団体各位に紙面を借りて厚
くお礼申し上げます。

(山川 陽二)



関西支部と山陰支部との合同踏査（赤岩の頭で：05年4月3日）
が判明したので、さらにこの区間を16区分して追加実施することにした。

05年2月時点で、全50区間のうち31区間がすでに踏査されている。支部報へは、藪山歩きの新たな楽しさや、ルート選定の困難さ等が逐一報告されているが、全区間踏査の暁には、あらためて踏査リストを支部報に掲載することとしている。

中央分水嶺に刺激されて、支部内には支線の分水嶺踏査の話が持ち上がった。すなわち、大阪湾と伊勢湾への分水嶺、瀬戸内海と太平洋の分水嶺等である。その一環として、大峰山奥駆道を中心とした古来の修験山嶺の全区間を辿る計画を、70周年事業に位置付けて実施したところ、そのメインルートはほぼ全区間の踏査を終了しようとしている。さらに、今年は四国の分水嶺踏査をやろうと盛り上がっているところだ。

分水嶺のおかげで、支部山行の機会が増すとともに、新しい仲間が増えているので、これを機会に、支部活性化に努めていきたいと思っている。

西に行けば行くほどブッシュがきつく、またアプローチにも時間を要するので、2、3泊するつもりで一挙に2、3区間をまとめて踏査することも必要となるであろう。ブッシュが寝ているこの残雪期を逃すと、次の秋・冬までかかることになるが、全区間踏査に向けて引き続き積極的に取り組みたい。（金井 良碩）

山梨支部

ギャラリーは、ゴルファー?!

埼玉・長野・群馬県境の三国峠から甲武信岳、金峰山を経て、奥秩父西端、山梨・長野県境の野辺山まで。これが、山梨・静岡両支部に示された、分水嶺踏査計画である。このうち、大弛峠～野辺山間を山梨支部が担当することで静岡支部との合意をみた。昨年7月24

日には大弛小屋で、静岡支部との情報交換会を盛大に行った。

当支部も会員の高齢化が進んでおり、在籍者は多いが実働部隊が少ない。可能なかぎり多くの会員が参加できるよう、担当する行程を、A区間（大弛峠～金峰山～八丁平）、B区間（八丁平～小川山～萱ダワ）、C区間（萱ダワ～信州峠）、D区間（信州峠～横尾山～野辺山）の4区間に分割した。

核心部はB区間で、距離が長く標高差もあり、しかも信州峠～小川山間は踏跡も不明瞭であることから、萱ダワまでは調査を2回、さらに信州峠～松ネッコ間についてはルート工作を4回行った。D区間は、標高差はないものの距離が長く、夏季は草丈が長く歩行困難が想定された。しかし、同事業の最終区間でもあるため多数の会員参加を期待して、中間の三沢の大タルで2分割し（信州峠方面をD1、野辺山方面をD2）、2隊に分かれて、同時調査を行うこととした。野辺山周辺は、分水嶺がゴルフコース内にあるため、事前に趣旨を説明し、了解を得たうえで実施した。隣接するホテルからは建物内の通過も許されたが、さすがにこれは遠慮した。長野県の川上村役場や筑波大学演習林の通行許可を得て、アプローチに林道を利用し車で入山できたことは、踏査時間の短縮に役立った。

04年4月6日、C区間で支部踏査の幕を開けた。7月のA区間踏査は、登山道が整備されていることもあり、多数の参加を得て実施。10月2日には、熊本支部との衛星交信にも参加した。そして12月18日、D1踏査は雪もなく、萱が倒れ登山道が不明瞭な箇所があったが、無事終了。D2踏査は、清里アーリーバードゴルフ場のコースを、プレーヤーの了解を得て踏査し、野辺山鉄道最高点到達。山梨支部の分水嶺踏査は、調査も含め14日間、延べ77名の会員の参加を得て、完了した。

（坂本 桂）



ゴルフ場が分水嶺（会員が立っている場所）

2. 活動をより活性化させるために

(1) 自然保護委員 (本部、支部)

は上記各活動分野にわたって、
「行動する委員」としての活動、
そしてそのための良識、行動力が
期待される。

(2) 各支部は、自然保護委員の選
定にとどまらず、可能な限り支部
自然保護委員会を構成して活動す
ることが望ましい。各支部は支部
独自の自然保護活動が尊重される
が、自然保護委員会 (本部) との
コミュニケーションを密にし、必
要に応じ連携プレーによって活動
の効果を高める。

(3) 内外の利害関係者が存在す
る場合でも、それによって行動が
制約されることの無いよう最大限
の努力を払う。

(4) 活動を効果的に推進するた
め、必要に応じ他の団体との共同
歩調も考慮する。

(5) 特定専門分野について継続
的な活動が必要な場合は、委員会
の組織を越えて広くJAC会員及
び会員外の賛同者や専門分野の知
識経験保有者を募ることも考える。
シンクタンク機能の検討も進める。
重要なことは、結果として日本山

岳会トータルとしての自然保護活
動の輪が広がることである。

創立100周年記念

「自然保護の集い」開催

4月9日、10日の両日、自然保
護委員会主催による日本山岳会創
立100周年記念「自然保護の集
い」が東京高尾で開催された。森
林と人間の共生をテーマに掲げ、
初日は全国集会和記念フォーラム、
2日目は第5回高尾の森植樹祭が
盛大に行なわれた。

初日の会場は4月1日にオーブ
ンしたばかりの東京都の野外活動
施設「高尾の森わくわくビレッジ」。
午前中は、全国の自然保護委員並
びに自然保護に関心の深いJAC
会員諸兄弟を集めて「自然保護全
国集会」(70名参加)が行われた。

提示された原案をもとにこれから
の日本山岳会の自然保護活動のあ
り方について熱い議論が交わされ、
「日本山岳会自然保護活動指針」
としてオーソライズすることが満
場一致で確認された。(本文前掲参
照) 今後は、本指針に基づいて如
何に行動していくかが問われる。

午後のプログラムは、アトラク
ションのミュージカルと公開シン

ポジウムである。劇団ふるさとき
ゃらばん演ずるミュージカル「天
狗の隠れ里」は、地球温暖化と森
林のはたらきをテーマにしたもの
で、高尾の森づくりの会会員家族、
こどもキャンプ参加者、近隣の小
学生など会場を埋めた450名の
招待者に大きな感動を与えた。公
開シンポジウム(130名参加)

は、東大名誉教授岩槻邦男氏によ
る基調講演「人は植物とどう付き
合うか」に続き、パネルディスカ
ッション「これからの日本の森づ
くりのあり方を探る」が行なわれ、
藤本常務理事の名コーディネーシ
ョンで、森林行政から生物多様性
に至る幅広い議論が会場の参加者
を交えて行なわれ大変有意義であ
った。

第2日は場所を裏高尾小下沢国
有林に移しての植樹祭である。総
勢450名のヘルメット姿の参加
者が10時には快晴に恵まれた小下
沢ベースのメイン会場を埋め尽く
した。今年用意された苗木は2千
本の広葉樹。全員がリーダーに引
率され急斜面の植栽地で心を込め
た植樹を行い、その後はベースに
戻ってトン汁に舌鼓を打つ人、今
まで植えた植栽地を訪ねる人など、

各自思い思いに爛漫の春を満喫し
た1日であった。

全国集会での平山会長挨拶要旨

「今日自然環境は大変な時期を
迎えています。そうした中で私達
はどうしたらいいのか、私は、ま
さに一人一人の自覚と行動が大切
だと思っています。今年日本山岳
会自然保護委員会は発足41年目を
迎えます。日本山岳会は、本来登
山の会なので、登山以外あまり関
心がなかったのも事実で、自然保
護などはとんでもないという時代
も長くありました。そうした中で
自然保護活動もようやく認知され、
これから育っていくわけです。育
っていく中で風当たりもあると思
いますが、皆さんが立派な成果を
あげて、日本山岳会の大きな仕事
となるような形で活躍いただきたい
と思います。ぜひ良い結果が
でるよう良い会議にしてください。」

最後に、本行事を開催するに当
たって準備に携わった多くの方た
ち、並びに、多大なご支援を頂い
た協賛団体各位に紙面を借りて厚
くお礼申し上げます。

「ブロック別式典開催のお知らせ」(その2)

式典委員会

日本山岳会創立100周年を記念して、10月15日に東京において総合式典が開催されるのに併せて、全国を8つのブロックに分けて式典及び記念山行が実施される。

各ブロックに属する会員はもとより、首都圏及び他ブロックの会員の参加も期待されているので、全国各地から奮って参加されたい。

各ブロックの開催要領を2回に分けて〔その1〕東北、京岐北陸、九州、北海道)〔その2〕フォッサマグナ、中国、東海、関西)紹介する。各項目の数字は、①第1日開催日時、②場所、③内容、④第2日山行、⑤参加費、⑥申込先氏名、⑦住所、⑧FAX、⑨E-mail、⑩申込〆切日をあらわす。

申込みは文書で、郵送、FAXまたはE-mailで行うこと。

〔その2〕

●フォッサマグナブロック式典(越後、信濃、静岡、山梨各支部)

- ① 9月17日(土) 15:00～
- ② 新潟県岩船郡関川村「御宿玄太郎」
- ③ 式典及び講演 小野健児
- ④ 三角点山登山
- ⑤ 15,000円
- ⑥ 事務局 横山征平
- ⑦ 〒959-3265 岩船郡関川村下関1100-1
- ⑧ 0254-64-0469
- ⑨ なし
- ⑩ 8月20日(土)

●中国ブロック式典(広島、山陰各支部)

- ① 9月17日(土) 13:30～17:45
- ② 講演会「南極」中国電力本社ホール(13:30～16:00)
- ③ 式典 八丁堀シャンテ(17:00～17:45)
- ④ 宮島 彌山(529.8m)
- ⑤ 6,000円(宿泊の場合 プラス7,000円)
- ⑥ 兼森志郎
- ⑦ 〒730-0041 広島市中区小町2-28-703
- ⑧ 082-248-3586
- ⑨ kanemori@fujipublics.com
- ⑩ 8月31日(水)

●東海ブロック式典(東海支部)

- ① 10月29日(土) 17:00～

- ② 名古屋市今池ガスビル大ホール

- ③ 式典及び講演 東海支部の足跡

- ④ 御在所岳 集中登山

- ⑤ 8,000円(宿泊費は別)

- ⑥ 星一男

- ⑦ 〒460-0014 名古屋市中区富士見町8-8

OMCビルB1 日本山岳会 東海支部内

- ⑧ 052-322-7924

- ⑨ room01@jac-tokai.jp

- ⑩ 9月30日(金)

●関西ブロック式典(関西支部)

- ① 11月5日(土) 13:30～

- ② 和歌山県高野山

- ③ 式典及び講演 高野山大学2階

- (1)「河口慧海の道を追う」

高野山大学教授 奥山道司氏

- (2)「役行者と修験道」

金峯山宗務総長 田中利典氏

懇親会並びに宿泊 遍照光院

- ④ (A)檀上伽藍～町石道 (B)女人道～高野三山

- ⑤ 10,000円(1泊3食)

- ⑥ 日本山岳会 関西支部

- ⑦ 〒537-0014 大阪市東成区大今里西2-5-12

大阪セルロイド会館19号

- ⑧ 06-6971-8067

- ⑨ jac-ks@m4.kcn.ne.jp

- ⑩ 10月5日(振込〆切)

100周年記念事業 会員募金並びに有志募金の御礼とお願い

募金委員会

この度の日本山岳会創立100周年記念事業の実施にあたりまして、広く会員の皆様にお願

い致しました所、多くの方々のご賛同を得まして、多額の募金をお寄せいただきました。厚く御礼申し上げます。

1、会員募金について

一昨年の総会でご案内の折に、1年について3千円、3年間で計9千円の募金をお願い致しました。本年3月に改めて募金をお願いを致しました。既に約1700名の方が9千円の募金に応じて下さっています。又、3千円と6千円の方の形で募金して下さい、全会員の55%を越えます。誠にありがとうございます。100周年記念事業の遂行にあたり、大切な財源にさせていただきます。

まだ募金に応じていただけない方にも、趣旨をお汲み取りいただき、是非会員募金にご協力い

ただけます様お願い申し上げます。

2、有志募金について

できるだけ大勢の会員の方々に募金していただくべく、年3回、計9千円の会員募金をお願いしておりますが、同時に今まで日本山岳会で色々な形でお力添えをいただきました方々に有志としての募金をお願い致しました所、多額の寄付金をいただきました。心から御礼申し上げます。紙面にお名前を記して感謝の印とさせていただきます。

(敬称略、会員番号順、4月19日現在)

30万円以上 (3名)

平山善吉、平位剛、鰐坂青青

20万円以上 (5名)

芳賀孝郎、平林克敏、橋本清、山川陽一、JAC支部懇談会(熊本)

10万円以上 (19名)

村木潤次郎、大塚博美、坂本矩祥、赤羽孝一郎、日下田實、小倉茂暉、竹田寛次、田辺寿、村井龍一、大森薫雄、斉藤惇生、宮下秀樹、久

保田保雄、田中文男、深川安明、李仁禎、井上功、斉藤茂昭、吉澤謙一

5万円以上 (50名)

小須田喜夫、小倉董子、松田雄一、杉野目浩、阿部和行、河西瑛一郎、岩坪五郎、奥原教永、庄司駒男、中村保、中野和郎、宗實慶子、長尾梯夫、練本允雄、高田允克、川崎巖、宮崎絃一、木戸繁良、田村俊介、湯浅道男、菊池修身、小川武、石田要久、賛田統亜、一力英夫、今村千秋、和田豊司、羽田英彦、篠崎仁、西村政晃、伊丹紹泰、内田博、黒川恵、渡辺雄二、重廣恒夫、高原三平、宇田川芳伸、宮川良雄、朴元鍾徳、皇太子殿下、大蔵喜福、鈴木敬吾、宮本数男、古市進、鳥居和雄、野口いづみ、藤本慶光、右川清夫、井上彪、橋本実

3万円以上 (20名)

若林啓之助、渡辺兵力、鳥居鉄也、五十嶋一晃、中世古隆司、本田誠也、沼田敏彦、田中杜佳、阿部郁夫、石橋正美、坂井広志、大貫敏史、岩瀬秀郎、藤井信己、日高宗平、柴田清康、川井憲二、大西雄二、弓削達雄、JAC九五会

以上

白山登山者の皆様へ

チブリ尾根避難小屋は、
平成17年5～9月末日(予定) まで
改修工事のためご利用できなくなります。
ご迷惑をおかけしますが、よろしく
申し上げます。(※仮設トイレは利用できます。)

※詳細につきましては、
石川県環境安全部自然保護課 TEL 076-225-1478
石川県白山自然保護センター TEL 0761-95-5321 までお問い合わせ下さい。



ATLAS TREK

個人手配旅行から人気のトレックツアーやエクスペディションのアレンジまで。充実度が違う「旅」のプランニングをここからがけしています。山旅などあらゆるジャンルを取り扱っています。お気軽にご連絡ください。

株式会社 **アトラストレック**
(国土交通大臣登録旅行業1167号)

東京/〒160-0008 東京都新宿区三栄町25 三栄ハウス202 TEL 03-3341-0030
大阪/〒540-0012 大阪市中央区谷町3-4-5 中央谷町ビル501号 TEL 06-6946-9111
名古屋/〒464-0807 名古屋区千代区東山通り5-113 オークラビル6F TEL 052-788-2422





関西支部と山陰支部との合同踏査（赤岩の頭で：05年4月3日）が判明したので、さらにこの区間を16区分して追加実施することにした。

05年2月時点で、全50区間のうち31区間がすでに踏査されている。支部報へは、藪山歩きの新たな楽しさや、ルート選定の困難さ等が逐一報告されているが、全区間踏査の暁には、あらためて踏査リストを支部報に掲載することとしている。

中央分水嶺に刺激されて、支部内には支線の分水嶺踏査の話が持ち上がった。すなわち、大阪湾と伊勢湾への分水嶺、瀬戸内海と太平洋の分水嶺等である。その一環として、大峰山奥駆道を中心とした古来の修験山嶺の全区間を辿る計画を、70周年事業に位置付けて実施したところ、そのメインルートはほぼ全区間の踏査を終了しようとしている。さらに、今年は四国の分水嶺踏査をやろうと盛り上がっているところだ。

分水嶺のおかげで、支部山行の機会が増すとともに、新しい仲間が増えているので、これを機会に、支部活性化に努めていきたいと思っている。

西に行けば行くほどブッシュがきつく、またアプローチにも時間を要するので、2、3泊するつもりで一挙に2、3区間をまとめて踏査することも必要となるであろう。ブッシュが寝ているこの残雪期を逃すと、次の秋・冬までかかることになるが、全区間踏査に向けて引き続き積極的に取り組みたい。（金井 良碩）

山梨支部

ギャラリーは、ゴルファー?!

埼玉・長野・群馬県境の三国峠から甲武信岳、金峰山を経て、奥秩父西端、山梨・長野県境の野辺山まで。これが、山梨・静岡両支部に示された、分水嶺踏査計画である。このうち、大弛峠～野辺山間を山梨支部が担当することで静岡支部との合意をみた。昨年7月24

日には大弛小屋で、静岡支部との情報交換会を盛大に行った。

当支部も会員の高齢化が進んでおり、在籍者は多いが実働部隊が少ない。可能なかぎり多くの会員が参加できるよう、担当する行程を、A区間（大弛峠～金峰山～八丁平）、B区間（八丁平～小川山～萱ダワ）、C区間（萱ダワ～信州峠）、D区間（信州峠～横尾山～野辺山）の4区間に分割した。

核心部はB区間で、距離が長く標高差もあり、しかも信州峠～小川山間は踏跡も不明瞭であることから、萱ダワまでは調査を2回、さらに信州峠～松ネツコ間についてはルート工作を4回行った。D区間は、標高差はないものの距離が長く、夏季は草丈が長く歩行困難が想定された。しかし、同事業の最終区間でもあるため多数の会員参加を期待して、中間の三沢の大タルで2分割し（信州峠方面をD1、野辺山方面をD2）、2隊に分かれて、同時調査を行うこととした。野辺山周辺は、分水嶺がゴルフコース内にあるため、事前に趣旨を説明し、了解を得たうえで実施した。隣接するホテルからは建物内の通過も許されたが、さすがにこれは遠慮した。長野県の川上村役場や筑波大学演習林の通行許可を得て、アプローチに林道を利用し車で入山できたことは、踏査時間の短縮に役立った。

04年4月6日、C区間で支部踏査の幕を開けた。7月のA区間踏査は、登山道が整備されていることもあり、多数の参加を得て実施。10月2日には、熊本支部との衛星交信にも参加した。そして12月18日、D1踏査は雪もなく、萱が倒れ登山道が不明瞭な箇所があったが、無事終了。D2踏査は、清里アーリーバードゴルフ場のコースを、プレーヤーの了解を得て踏査し、野辺山鉄道最高点到達。山梨支部の分水嶺踏査は、調査も含め14日間、延べ77名の会員の参加を得て、完了した。（坂本 桂）



ゴルフ場が分水嶺（会員が立っている場所）



中央分水嶺踏査



総延長：5000km
踏査率：54.4% (2005.4.30現在)
延べ489日、2499人参加

福岡支部

山城と修行者を追って

福岡支部の担当は国内有数のカルスト台地の「平尾台」から、日本三大霊山「英彦山」までと決まる。総踏査距離約37km（地図上の平面距離）を7区間に分割し、04年11月から05年5月までに完了することとした。北九州の背骨を通る福智山系と思っていたが、地形図を眺めてその右手の稜線だということに気付かされた。標高400～500mの尾根歩きはかなりのブッシュが予想され、藪が落ち着く11月30日からのスタートとなった。平尾台のルートは一部三菱鉱山で現在でも石灰岩を採掘しており、立ち入りが不明確のため、最後に廻すことにした。なお、この稜線は筑豊盆地の田川郡と海岸線に広がる京都郡の狭間にあり、昔からかなりの往来があったことが伺える。

鎌、鉋、鋸を準備し、いざ味見峠をスタートすると、障子ヶ岳まではよく整備されたハイキングコースであった。見事な土塁が残り、室町後期の足利一族の山城の跡が頂上に残る。そこから向かういくつかの山頂にも山城が築かれていたが、ほとんどが豊臣秀吉の九州平定により落城させられている。これらのピークを結ぶ尾根筋は、その大部分が手入れをされていない人造林で、下草が藪となり、かなりのアルバイトを強いられた。2万5千分の1の地形図を久しぶりにじっくりと眺め、コンパスとGPSを駆使しながら歩くのは楽しいものである。地形図の情報の多さには敬服するが、現在使用されていない道や構造物が削除されてなかったり、10数年前に造られた2車線の道路が記載されていないなど、まだまだ不備があることに気付く。3回目の踏査の頃より鹿の糞が出始めた。鹿が杉、檜の皮を食べているのである。途中、3～4kmにも及ぶ鹿

よけネットにも遭遇した。

今年は九州も雪が多く、来月に向かう英彦山を仰ぐと、その1200mの峰は雪に覆われ山頂は雲の中である。我々が歩いているこの分水嶺の稜線は霊峰への修行者のルートでもある。次の踏査は10数人のパーティーとなり、温泉宿に1泊し懇親会を兼ねた楽しい踏査となる予定である。

(浦 一美)



飯岳山の展望とそれから続く戸城山への分水嶺

関西支部

支線へつなぐ分水嶺

関西支部は、日本山岳会が誕生した30年後に発足しており、日本山岳会の100周年は関西支部の70周年にあたる。中央分水嶺踏査は、2004年3月にその企画詳細が決定されたが、これに先立ち支部では2002年12月発行の関西支部報で「支部70周年事業」として同踏査を位置付け、支部会員に参加を呼び掛けた。

当初は、大阪・京都・兵庫の3県境に近い三国岳から、兵庫・鳥取県境のほぼ中央に位置する志戸坂峠までの198kmを34区間に分け、日帰り、もしくは前夜泊で踏査することとした。しかし、志戸坂峠以西の人形峠までの76kmが担当支部のない空白区間になること

講演会「登山とサプリメント」

科学委員会 北野 忠彦

最近、サプリメントの様々な情報が広まっているが、サプリメントの摂取が登山に際してどのような効果をもたらすのかについて、神奈川県保健福祉大学助教授、鈴木志保子氏にお話を伺った。

サプリメントとは、「栄養補助食品」であり、食品のように摂取後消化吸収され栄養素として体内で利用されるものではない。本来は食事だけでは十分摂取することのできない栄養を、栄養素そのものとして摂取するものであり、栄養剤から補うものであった。最近「より健康になる」ためにと摂取する傾向が大きくなってきた。しかし、食事からの栄養摂取を無視して、サプリメントをとればよいという考え方は間違いで、栄養素の過剰摂取による有害な副作用に注意が必要である。

サプリメントは薬ではないので、医師の監督がなくとも購入・摂取することが可能であり、その選択・摂取は自己責任となる。

普段の生活では、基本的には消

費するエネルギーや栄養素は食事

で補うことができるが、激しい運動を行うとその分のエネルギーや栄養素すべてを食事から摂取しようとしても限度があり、その不足分についてはサプリメントを有効に利用することが必要になる。さらに、運動後の疲労回復にもサプリメントの利用は有効である。

このようにサプリメントを有効に利用するためには、栄養学、食品学、さらには運動生理学などの知識が必要となる。

サプリメントを選ぶ際にはいろいろな栄養素が含まれているものは避け、1つの栄養素だけからできているものを選ぶこと。総合栄養剤の摂取はやめること。さらに、成分がはっきりしないサプリメントは摂取しないほうが賢明である。また、1日単位の錠剤あるいは包装のものでなく、小さい単位で摂取することができるサプリメントを選ぶべきであり、摂取量の上限は必ず守ることが重要である。

栄養素には相性のよいものと悪

いものがあり、一般的な食生活の中では注意を払わなくてもよいが、登山のような強度の高い運動を長時間行ったり、食欲がないときには考慮する必要がある。

運動によって体内から水分が失われる。登山時の水分補給は、脱水や熱中症などの事故を起こさないためにも必要である。登山時における水分摂取量が適切かどうかは、登山中や登山後の尿の検査でチェックできる。登山中3時間も尿意を催さない、登山後1時間たっても尿意が起らない、登山後の尿の色が濃く、量も少ないなどは登山全体を通して水分の摂取量が少なかったことを示す。

水分補給にスポーツ飲料が用いられることが多い。スポーツ飲料の特徴として、発汗によって失われた成分を補給する、水分を吸収しやすくしていることがあげられる。水が腸からスムーズに吸収されるためには、体液よりスポーツ飲料に含まれる成分の濃度が低く、浸透性が低くなければならない。またスポーツ飲料の糖質が濃いと、濃い糖質を薄めるために体液から水が腸に移り、ますます体液の水が奪われる。市販のスポーツ飲料

は水分と電解質の補給を考えて作られていることが多く、エネルギー補給のための糖質はあまり含まれていない。

しかし登山では、通常のスポーツとは異なり大量のスポーツドリンクを携行することは困難なので、スポーツドリンク用粉末や塩をとる必要がある。

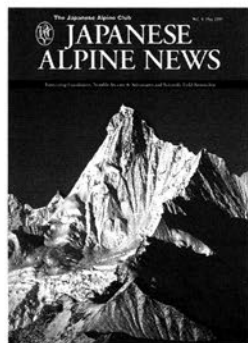
体内でエネルギーが産生される時、ビタミンB群が補酵素として重要な役割を果たしている。運動で大量のエネルギーが必要とき、糖質や脂質などだけでなく、ビタミンB群も十分に摂取しなければエネルギーの産生がうまくいかない。登山に際しては、ビタミンB群のサプリメントが有効である。この他、アミノ酸を成分とするサプリメントでは、必須アミノ酸、特に分岐鎖アミノ酸とよばれるバリン、ロイシン、イソロイシンの摂取効果についても触れた。

なお、サプリメントとは直接関係ないが、登山を含むスポーツでは適切な体重の維持が必要で、朝、起床直後、排尿後の体重を毎日記録することが欠かせない、などの話があった。

(2月17日に行われた講演会より)

英文誌『ジャパニーズ・アルパイン・ニュース』第6号発行

編集人 中村 保



4月末に Japanese Alpine News Vol. 6 May 2005 を発行しました。
海外への送付は140の山岳団体・図書館、650人の個人登山家・研究家が対象です。サイズはB4、目次は下記の通りです。内容を豊富にするため要望のあった外国隊の記録も掲載しました。下記の価格にて販売します。ご希望の方はJAC事務局にコンタクトして下さい。

販売価格：1冊2000円（送料込み）

Japanese Alpine News Vol. 6 May 2005 目次 (135ページ、内カラー24ページ、地図多数)

President's Message

会長メッセージ

平山 善吉

Editor's Notes

編集者ノート

中村 保

● CLIMBING EXPEDITIONS

クライミング・エクスペディション

JAC Kansai Expedition to West Tibet 2004

JAC関西 西チベット 学術登山2004 初登頂と河口慧海の道を踏査
大西 保

Mustang Expedition of JAC Student Party 2004

JAC学生隊 ムスタン登山ダモダール山塊チブヒマール初登頂
加藤 健一郎

Two First Ascents in Damodar Himal, Nepal

ネパール ダモダール・ヒマールで二つの初登頂
加藤 功一

First Ascent of Nyanglong Kangri, West Tibet

英国隊 西チベットのニャンロン・カンリ初登頂
ジョン・タウン

Jieqinnalagabu (Namla Karpo) Scaled, East Tibet

東チベットの名峰 ナムラカルポ初登頂 (単独)
ガブリエル・ボイド (スイス)

New Zealand Unclimbed China Expedition 2004

NZ隊 四川省大雪山系における二つの6000m峰初登頂
スイーン・ウォーター

First Ascent of Qow Xab & Attempt on Hungchi

チョー・オユー山塊 チョー・シャブ初登頂、フンチ北面へのチャレンジ
坂原・中村

Highest Peak in Kara Kunlun Mountains

東海大学生隊 新疆省カラ・クンルンの最高峰初登頂
出利葉 義次

The Source of the Mekong - Remotest Corner of East Tibet

東チベット メコン川源流域最高峰チアジャジマ初登頂
新潟山岳協会 松坂 良一

Spantik (Golden Peak) and Laila Peak in Karakoram

カラコラム スパンティックおよびライラピーク登頂
平出 和也

Kula Kangri I (Main Peak) in Tibet

日大学生隊 チベット・クーラカンリ I 峰(主峰)挑戦
中村 進

Attempt on North Ridge of Tang Ragi Tau

JACシニア隊 ネパールのタンギ・ラギ・タウ北稜に挑戦
藤井 正義

Attempt on Monda Kangri in Tibet

チベット モンダ・カンリにチャレンジ 仙台山想会
東野 良

Daxuetang-feng of Qonglai Mountains in Sichuan

四川省チョンライ山系・大雪塘峰第二登
西嶋 鍊太郎

Japanese Climbs 2004 in the Himalayas

2004年ヒマラヤにおける日本人の登攀記録
山森 欣一

● EXPLORATIONS, ADVENTURES AND RESEARCH

探検・冒険・調査

Alps of Tibet and Retracing Missionaries' Trails 2004

チベットのアルプスおよびフレンチ・カトリック宣教師の道
中村 保

Exploring Kangri Garpo Range 2004

JAC福岡隊 東チベットのカンリ・ガルボ山群探検
松本 征夫

Lapche Khan in Nepal

ネパール ラプチェ・カンへの旅
倉知 敬

A Journey to the Little Pamir

パミール・ワハン探検の旅
平位 剛

Expedition to Pangong Range and Ladakh Range

インド パンゴン山脈とラダック山脈の踏査・登山
中京山岳会

First Descent of the Mekong River in Tibet

日米中合同隊 チベット・メコン川初下降
北村昌之・ピートウィン

A Romantic Journey to the Far North

ロマンティック ジャーニー 北極圏の旅 小嶋 一男

● AREA INFORMATION

地域情報

Mountaineering in Antarctica

特別寄稿 南極の登山
ダミエン・ギルデア (オーストラリア)

Regulations on Mountaineering in Sichuan, China

中国四川登山規則 中村 保

Climbing & Medicine · 44

アスピリンの
“血液さらさら作用”と登山

野口 いづみ

アスピリンは解熱・鎮痛薬として有名ですが、医療上、それと同程度に重要なものに抗血小板(血小板凝集能抑制)作用があります。血小板の凝集が抑制されると、血液が固まりにくくなる、つまり“血液さらさら”になります。そのためにアスピリンは、血栓を起こしてほしくない人(狭心症、心筋梗塞や脳梗塞の既往のある人)や、起こす危険の高い人(心房細動などの不整脈のある人)に予防的に投与されます。現在、抗血小板薬として使用されるアスピリンには、「バファリン81mg錠」と「バイアスピリン」などがあり、アスピリンの量は1錠、81~100mgです。“血液さらさら”作用を目的とする場合には、1日あたり1錠を内服します。それに対して解熱・鎮痛作用を目的とするアスピリンには「バファリン330mg錠」などの商品があり、これを1日に500~1500mg内服します。効果をあらわす血液中の濃度は、“血液さらさら”は1~2 $\mu\text{g/ml}$ 、鎮痛は25~50 $\mu\text{g/ml}$ で、“血液さらさら”は鎮痛の約25分の1と少量です。

病気の無い人でも、脱水によって血液が濃くなると血栓ができやすい状態になります。登山では、汗をかけたあとに十分に水分を補給しなかったり、

トイレが近くなるからと意識的に水分を摂らなったり、あるいは前夜に深酒をすると、脱水状態になって血栓ができやすくなります。また、高所ではより脱水をきたしやすいので、要注意です。血栓への対策としては、水分補給が第1ですが、“血液さらさら”量のアスピリンを内服することも予防になるでしょう。

欧米人は、高所で血栓予防のためにアスピリンを内服しているのを見かけますし、2004年5月にエヴェレストに登頂した河野千鶴子さんもアスピリンを使っていたと聞きました。ただし、アスピリンは副作用として、止血させにくくするとともに、胃の炎症や潰瘍を起こす場合があります。特に日本人はアスピリンで症状を起こしやすいことが知られており、過量な内服は有害です。また、高所では胃潰瘍を生じやすく、一層、注意が必要になります。

“血液さらさら”を目的とした低用量のアスピリンは市販されていません。市販のアスピリン錠を分割して内服する人もいますが、量が不正確になりやすいので、医師に処方してもらうことをおすすめします。

なお、小児ではインフルエンザなどのウィルス疾患にアスピリンを投与するとライ症候群という脳症を起こす場合があるので禁忌で、「小児用バファリン」は主成分がアセトアミノフェンになっています。成人用でも、「バファリン」という名称でアスピリンではなくアセトアミノフェンのものがありますが、その場合は“血液さらさら”作用はないので、成分を確かめることが必要です。

図書受入報告 (2005年3月)

著 者	書 名	ページ・大きさ	出版元	出版年	寄贈/購入別
高澤光雄(編)	「山の素描」の執筆者たち	56pp/21cm	高澤光雄(私家版)	2005	編者寄贈
高澤光雄(編)	山の仲間と50年:秀岳荘創業50周年記念誌	177pp/21cm	秀岳荘	2005	編者寄贈
中村保	チベットのアルプス	381pp/22cm	山と溪谷社	2005	出版社寄贈
永田秀樹(編)	山の遭難 生きた、還った:セルフレスキューの秘訣	191pp/21cm	東京新聞出版局	2005	出版社寄贈
飯村富彦 他(編)	白き山嶺 II 2005: 県陵山岳部・山岳会の半世紀	309pp/27cm	県陵山岳会	2005	発行者寄贈
永田良茂	古代人の心で山名を読む:百名山から	273pp/26cm	友月プランニングセンター	2004	著者寄贈
豊田順介	「回想」 日本三百名山(上巻)	335pp/27cm	山と溪谷社	2004	著者寄贈
大塚憲一	2450 WORLD	/13x19cm	文芸社	2005	出版社寄贈
二高山岳部史編集委員会(編)	清き溪から真夏の空へ:第二高等学校山岳部々史	219pp/26cm	東北大学山の会	2005	発行者寄贈
Chris Bonington	Chris Bonington's Everest	256pp/27cm	Weidenfeld & Nicolson	2002	購入
Reinhold Messner	The Naked Mountain	315pp/23cm	Mountaineers Book	2003	購入
M.S.Kohli & K.Conboy	Spies in the Himalayas: Secret Missions & Perilous Climbs	226pp/24cm	Univ. Press of Kansas	2002	購入
Richard Salisbury	The Himalayan Database: The Expedition Archives of Elizabeth Hawley	80pp/20cm	American Alpine Club	2004	購入
Assoc. Comparative Alpine Research	Arbeiten aus Nepal : Erwin Schneider zum Gedächtnis	180pp/27cm	Universitätsverlag Wagner	2004	W.Heichel氏寄贈
Einar Eberhardt	Plant Life of the Karakorum (Dissertationes Botamicae Band 387)	223pp/23cm	J.Cramer	2004	W.Heichel氏寄贈

分水嶺踏査余話

東海支部 西山 秀夫

東海支部の中央分水嶺踏査は権兵衛峠から野麦峠までである。この間はほとんど登山道が整備されてなく、資料にも当たって見たが無かった。それで多くは残雪期に照準をあて、また笹藪を漕ぎ分けてこのほどようやく完遂した。

さて、その踏査の記録をまとめるにあたって何か物足りない気がした。誰かが書いているはずだ。そう思って最近購入したアテネ書房の戦前の復刻版『山岳』第2集の梱包を解き、目次をパラパラめくり中央アルプス、木曾といった語彙を探すとあるではないか。執筆者の名前は高畑棟材。早速、本

東西南北



オオヒラウスユキソウ

イラスト・倉岡啓吉

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。(紙面に限りがありますので、1点につき1000字程度をお願いします)

文を読んでみたら、我々が踏査したルートの一部を歩いていた。18年「奈良井附近の山」、22年「榑川谷から木曾川べりへ」である。多くは分水嶺を離れた遠望の記述であったが、狙いは木曾川水源の山々を跋涉する夢を抱いていたことは文面からも伝わってきた。しかし、どうも病弱で山には入れなかったようである。

高畑棟材をインターネットの検索で調べると『行く雲のごとく高畑棟材伝』がヒットした。著者は会員の故浅野孝一であった。早速取り寄せて読んでみた。あとがきを読んで知ったことは、この本自体がなんと89年と90年の『山岳』の「行雲と共に 高畑棟材伝」上・下の内容そのものであった。今度は「行雲とともに」を読

みたくなった。また検索した。名古屋市立図書館で唯一ヒットした。大正12年の開館だから或いは、という期待が的中した。

退社後すぐに図書館に走った。それは紛れもない『行雲とともに』であった。奥付には昭和9年の日付印が押してあり、発行してすぐに購入されたらしい。司書さんから手にとりて見ると、すでにぼろぼろと形が壊れかかった。表紙の題名は判読できなかった。そんな本であったがあの名古屋大空襲でも焼かれずに残ったのである。まさに70年余の歳月を感じさせてくれた。

高畑は分水嶺の山々を意識して木曾に遊んだのである。そして権兵衛峠の由来、神谷峠のこと、峠山、高遠山などを登って記述している。

会報No.716で関塚氏は『山岳』をして「大部分の会員に読まれている」と嘆かれた。しかし、続いて「後世の歴史家が必要とする文献となる」と指摘された。私自身は後世の歴史家ならずとも戦前の木曾の山の様子を知るのに貴重な文献であったことを報告せずにはいられない。

生きているものは美しい

岡本 真理子

故大谷優前支部長追悼登山に寄せて

サムエル・ウルマンは、「青春とは人生のある時期ではなく心の持ち方を言う。時には20歳の青年よりも60歳の人に青春がある。」と言うが、まさに大谷さんは不屈の精神を持って突き進む若者であったと思う。

その大谷さんがある日、ふと立ち止まったのである。そして辺り

大姑娘山 (5025m) 登山

10日間

憧れの青いケシを求め
高山植物が誘う
中国5000m峰へ

出発日
A) 6/28 (火) B) 6/30 (木) C) 7/1 (金)
D) 7/5 (火) E) 7/8 (金) F) 7/12 (火)
G) 7/15 (金) H) 7/19 (火) 5/23 (月) 13:00~
I) 7/22 (金) J) 7/26 (火) 説明会&セミナー開催!!

代金
A,B) 298,000円 C) 320,000円 入場無料
D,E,F) 325,000円 G,H,I,J) 336,000円 要予約

山旅専門旅行社 アミューストラベル株式会社
〒160-0022 東京都新宿区新宿2丁目6-4 KN新宿ビル11階
TEL: 03(5919)1188 FAX: 03(5919)1189

を見まわし後ろを振り返る。何が
見えたのだろうか、きつとそこ
は人生の最大の理解者であるセツ
子夫人がいて、そして先に逝った
仲間がいたかも知れない。数多の
山々が眼前をよぎる。大谷さんは
ようやく双石山で腰を降ろしたの
だろう。

その縁ある双石山を12月11日
に大谷さんを偲んで仲間と登った。
早朝、小谷駐車場に集合して静寂
の山に踏み入る。時折聞こえる野
鳥の乾いた声、山の深さを思わせ
るほどの照葉樹林の佇まいは、師
走の慌ただしさから無我の境地へ
と落とし込む。ほどなく第2展望
所に着き、そこで追悼式を行った。
会員手作りの祭壇には、セツ子夫
人の持参された数枚の写真。額の
なかのその顔は笑っている。展望
所から指呼の間に青島の山稜が座
り、眼下には霜枯れてはいるが春
は沃野となるであろう平野が広が

短歌

追悼の双石山

君慕い偲びし岳友ら五十人集う追悼の双石の山

君愛でしサツマイナモリ咲く山路屈まり写す後姿の見ゆ

る。

ほら大谷さん、いい景色だよ。
あなたもこの故郷の有様を見てい
ますか。式後、在りし日の大谷
さんを偲んでしばらく仲間と語り
合い、香のかおりを残す展望所を
後にする。難なく双石山西側の姥
ヶ嶽権現神社に降りた仲間の顔は
皆穏やかで明るい。

生前、大谷さんは次のようなこ
とをよく言っていた。「生きてい
るものは美しい。ほら、よく見て
ごらん、見ていると心が豊かにな
るよ」と。大谷さんのそれは、人
を含めて生きとし生けるものへの
愛情と慈しみの現れだった。

神代のしじまに包まれて清流に
耳を傾ける時、唐突な鳥の声まで
愛おしい。“生きているものは美
しい”あなたが身をもって示した
この思想を私達は永く受け継ぐこ
とでしょう。これから山へ向かう
私達の心の道標として。

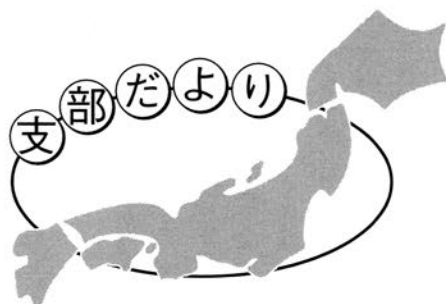
谷口 敏子

秋田支部

平成17年度定期総会報告

秋田支部の平成17年度定期総会
が、去る4月2日(土)午後4時
から、会員24名(見做し委任状29
名)が出席し秋田市内の大町ビル
会議室で開催された。

支部長挨拶のあと議事に入り、
昨年度の事業報告では、本会10
0周年記念事業のひとつである
「分水嶺登山」の成果と、当支部
設立45周年記念祝賀会、同記念山
行(秋田太平山集中登山、韓国山
岳会慶南支部との交流登山/得裕
山・伽倻山など)の事業結果など
が報告された。



全国各地の支部から、独自の活動状況を
リポートします。

支部会報は、45周年記念にあた
って会員の関心も高く、原稿が豊
富に集まったため、例年よりも2
回多い5回発行となり、通算62号
となった。

決算報告や監査報告が承認され
たあと、平成17年度の事業計画案
が提案され、本会100周年事業
への協力と、「分水嶺登山」の継続
実施を承認した。

併せて、100周年事業記念に
つながる東北支部懇談会への参加
や自然保護全国集会への参加、さ
らには10月の本会の一大イベント
である記念式典、祝賀会への多数
の参加を確認しあった。

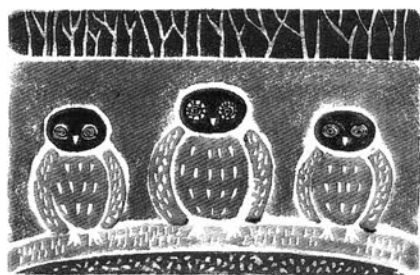
また本年度は役員の改選期にあ
たり、佐々木支部長が再選された
ほか、副支部長2名、事務局長、
委員の一部が交代をし、今後2年
間、支部の運営にあたることにな
った。

今次総会時点での会員総数は78
名で、年間の異動は、新加入が3
名、残念ながら除籍が1名である。

その他、本会主催の諸会議の参
加と、地元山岳団体との交流、会
報の4回発行(予定)などが、予
算案とともに全員一致で承認され
た。

(鈴木 要三)

図書紹介



幸せを呼ぶ鳥 版画・奥野溪石

『素晴らしき幸運な登攀』

京極 紘一・著

北海道は多岐にわたる登山興隆の地である。本州と海で隔てられているが故に、独自の発展の歴史があり、道内のクライマーたちは特徴的な登山活動をしている。本州の脊梁山脈に標高こそ及ばないが、豪雪、強風、堅い氷とスケールの大きな岩壁に恵まれている。本書は、その中で育った優れたクライマーである著者(本会会員)の1965年から79年までの厳しい登山活動が詳細に語られている。当時の積雪期を含む初登記録は、冒険的かつエキサイティングで、20年後の現在でも色あせない。

海外登山については、66年と74年の夏のカフカズでの精力的な登山活動が回想をまじえて収録されているが、同氏のミニヤコンガはじめ、ネパール、ブータン、カカコルムなどの豊富な遠征体験についても発表して欲しいものだ。

著者は、登山を生涯学習のテーマとして、60歳を超えた現在もアルパイン・クライミングを続けている。後に続く道内のクライマーのためにも、良き手本を示して欲しい。

(松沢 節夫)

2004年9月 私家版 277頁 1429円

札幌市内の書店、秀岳荘、茗溪堂で取扱い

『山がくれた百のよろこび』

山と溪谷社・編

各界の著名人137人がそれぞれの山への想いを綴った本。

歓喜はそれ以前の苦労や鬱屈、また哀しみの大きさに比例する。だから、どこかで見たような健康第一主義の題名の付け方で「よろこび」だけを強調されるといかにも照れくさい。執筆者の中には「よろこび」でくくられてはかな

わないと思っている方々もいることだろうと思う。

名の知られた人たちの執筆によるとはいえ、この手の本の常として、中には玉もあれば石もある。

山の話の基本は苦労話、すなわち自慢話である。どこそこへ登ったこと、どこそこで死にそこなったこと、などなど。普通なら石でしかない身の上話も文章に才能や技術があれば磨かれて玉になることがある。この本の中にもある。

それだけでもこの本を買う価値はある。ここで私の思うそれらを挙げるのは書評ならぬ図書紹介の場

▲▲山の本の本 岳書縦走

雁部貞夫 著

菊判・444ページ 特装本と普及本の二種発売!!

- 特装本
著者直筆の歌とサイン
美装・天金・箱入
限定版125部(番号入)
定価 16,800円
- 普及本
上製本・カバー掛け
定価 5,775円

ヒマラヤ、カラコルム、中央アジアからシルクロード、中国、そして日本の山々についての登山記と紀行文のほか、多彩な文化人が語った自然と民俗・文化についての名著130篇について、著者が鋭い眼で書評・解説した山の『書誌文化誌』。

*特装本につきましては直接小社へお申し込み下さい。

おれ にんげんたち

——デルスー・ウザラーはどこに——



黒澤明が感動したように、デルスーに魅かれて

探検家アルセニエフの生涯とその足跡をウスリーのタイガにたずね、二人の友情、自然と人間のかかわりを探究する。

岡本 武司 著
四六判 220頁 1,890円(税込)

ナカニシヤ出版

〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町15番地
Tel.075-723-0111 Fax.075-723-0096
URL <http://www.nakanishiya.co.jp/>

ではルール違反だろう。各人がそれを吟味するのも楽しみのうちだ。文庫サイズだと山への車中やテントでの無聊を紛らわすのにはもってこいののだが、携行するには大き過ぎるのが残念だ。岳人の枕頭に置いて、夜中に目が覚めたときにでも拾い読みするには最適である。

2004年4月 山と溪谷社
447頁 1800円

■訂正
4月(719)号7ページ2段後ろから2行目小暮は木暮の誤りです。お詫びして訂正いたします。

岡田 汪・著

『夫婦登山ことはじめ』
――袴で登った剣岳――

服装といえは、当時の女学生がはく袴の裾をしぼり、足ごしらえは足袋を二重に重ねてワラジをつけ、その上にカンジキを紐でくくりつけるという出で立ちであった。さらに手にはトビ口をつけた金剛杖、雨が降ればゴザを巻きつけて登るといような時代であったが、約3週間、竹内ヒサと、夫鳳次郎は、数人のガイド、ポーターを伴って大町から入山し、針の木峠を越えて黒部川を渡り、長次郎の雪渓を登って、女性初の剣岳の登頂に成功した。

大正9年(1920)の夏、鳳次郎35歳、ヒサ22歳、勿論きちんとした山小屋などあるわけがなく、テント持参であった。鳳次郎は欧州航路の高級船員で、西欧の文化に通じており、内地での休暇には、何時も夫妻で長期間登山や旅行を行っていたが、当時はまだ女性の地位は低く、宗教的なタブーも多い中で夫婦登山であった。

この『女子剣岳登山記』のほか『鹿島槍から針の木へ』、『風雨の

北岳』など夫婦の登攀記を『夫婦登山ことはじめ』と題して、ヒサの兄、要之助の子、岡田汪が1冊の本に纏め上げた。要之助は日本山岳会の古い会員(606番)でもあった。

山崎安治著『日本登山史・新稿』には、竹内いさとその夫が大正9年(1920) 剣岳に初登頂したと記されていたので、本書の著者は、いさと誤記されていたヒサの名前の誤りを正すことが、出版の目的の一つであったと記している。なお鳳次郎の手記が、木暮理太郎会長の目にとまって『女子剣岳登山記』として『山岳』第15年第3号に掲載されたが、ここでも妻としているのみで、ヒサの名はみられなかった。

そこで著者は、縁者を動員して、夫妻の遺品を調べたところ、ノートに書かれていたヒサの登山記や鳳次郎の手記も見つかった。その上貴重な往時のフィルムも残存していたので、本書には、山での鮮明なスナップ写真が数多く散りばめられている。これらの写真にみられるヒサは、いつも、かなり心に余裕をもって、山行を楽しんでいたように見うけられる。

山行の記録は、職業柄か、登山記録に時間が詳細に記述されており、当時を知る上でも、大変参考になる。細かい数字までとりあげた著者の努力を多量とした。

現在私は百年史の女性登山史部門を担当している。その意味でも、本書は貴重な資料となるであろう。

(児玉 俊子)

2004年10月発行 2012年

頒価2500円 私家版

(希望者は) 2003・0021

東久留米市学園町2・15・19

岡田汪宛

井上重治・著

『カラコルム・ヒマラヤに魅せられて』

膨大な内容に驚いた。①カラコルム・トレッキング②カラコルムをめぐる物語③カラコルムの自然の3部構成となっている。

トレッキングは、92年から98年までの7回、パス、チャラクサ、ナンガ・パルバットなどを訪れた内容が克明に報告されている。

物語は豊富な内容だ。圧巻は、「空中散歩」と題された空撮されたカラコルムの山々の同定が30枚

日本山岳会創立100周年記念

河口慧海の足跡をたずねて

A) 国境の峠探訪とカイルス1周トレッキング 33日間
9/12(月)~10/14(金) 785,000円

B) 秘境ムスタン・トレッキング 22日間
10/18(火)~11/8(火) 645,000円

国土交通大臣登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員 東コンド機販会員
ALPINE ツア サービス 株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋1-12-1 西新橋1森ビル2F ☎03-3503-1911
大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557
e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

にてキノコ採取の準備を行った。
そして、625頁に盛られている
内容のすべてが、定年を迎えた後
に通ったカラコルムの現場から得
たもので綴られていることに驚愕
し、ナチュラリストの著者に敬意
を表したい。(山森 欣一)

2004年4月 遊人工房
635頁 9041円

『アンデス登攀記(上、下)』

ウィンパーは『アルプス登攀
記』の著者であり、マッターホル
ンの初登頂者としてあまりに有名
であるが、本著はエクアドル・ア
ンデスに、それに勝るとも劣らな
い業績を残したことで、精力的で
卓越した登山家であったことを、
あらためて教えてくれる。

ウィンパーは1879年から80
年にかけて、7カ月間、エクアド
ルに滞在した。その間、一行はチ
ンボラソ(6310m)、カヤンベ
(5790m)、アンティサーナ(5
758m)など8つの未踏峰のほ
か、コトパクス(5897m)、ピ
チンチャ(4794m)など数山を
登頂しており、本著では登山の模

様がリアルに描かれている。

中でも特筆されるのは、182
0年代まで世界最高峰とされてい
たチンボラソの南西稜からなされ
た初登頂であろう。半年後にはさ
らに北西稜から第2登を果たして
いる。第2登は、「山頂の気圧を繰
り返し測定し、検証するためであ
る」と記されているが、実際は初
登頂を疑問視する向きに対する反
論という意味があったようである。
山頂では、気圧や体温の測定に時
間を費やし、真摯な科学者魂を発
揮している。

このように、登頂意欲とともに、
随所で発揮される好奇心の対象は
気象学、地理学、歴史民俗学、昆
虫学、鉱物学から高山病などの生
理学までおよんで、とどまること
を知らず、詳細な観察に基づいた
報告がなされている。また、画家
という本職を思い起こさせる挿絵
が多く挿入されており、理解を助
け、目を楽しませてくれる。これ
らは、ウィンパーが科学が細分化
されるより以前の時代の落とし子
であったことを示している。

19世紀の、交通事情の悪い土地
での、雇用了たインディオの逃亡
や追いはぎ騒動に遭遇しながらの

周遊には多大な困難を伴っていた
ことと思われる。しかし、本著で
は、『アルプス登攀記』にみられ
る冷笑的なトーンは影を潜め、温
かみのあるユーモラスな表現が随
所に見られ、人格的な成熟を示唆
するとともに、困難さを楽しんで
いたようにさえ感じさせる。「辛
かったことは忘れた。遂行し終え
た計画は、いまだ実現していない
夢に比べれば、小さなものとしか
思えない」という締めくくりに言
葉は、この知的な巨人の、不屈の
探究心を示しているようである。

なじみ深い国とはいえないが、6
000年前後の山へのアプローチ
が良いことから、欧米人には高所
トレーニングの山域として評価が
高い。『Climbing & Hiking in
Ecuador』(Rachowiecki 他著、
Bradt社)、『Guide to the Worlds
Mountains』(Kelsey 著、Kelsey
社)を併読すると、エクアドルの
山への興味が、一層かきたてられ
ることだろう。(野口 いつみ)

上巻 2004年9月、下巻2
005年1月 岩波書店発行
文庫版 上巻305頁 800
円 下巻291頁 700円

ユングフラウヨッホにいちばん近い村、ウェンゲンの 家庭的なホテルアイガーと、スイスの旅の専門店 アルプスウェイが自信をもってお勧めする共同企画。

アルプスウェイご利用で、ホテルアイガーに
お泊まりの日本山岳会会員様へ4つの特典。

1. ユングフラウのよく見えるお部屋を
優先的にご提供。
2. 民族料理フォンデュを
ご滞在中の夕食に1回ご用意。
3. アルプスウェイ駐在員による
1日の専属ガイドサービス。
4. ホテルのオーナー、フックス氏より
地元産リキュールをプレゼント。



あなたのスイス旅行を、このホテルアイガー滞在を組み入れてご利用します。

お問合わせ
お申込みは **アルプスウェイ** **ALPS WAY.**
<http://www.fellow-travel.co.jp/>
〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂2-16-8 ビジネスヴィップ渋谷ビル4F
Tel.(03)5489-9541 Fax.(03)5489-6300
e-mail alpsway@fellow-travel.co.jp
〒530-0002 大阪府大阪市北区曽根崎新地2-3-13 若杉大阪駅前ビル6F
Tel.(06)6347-8984 Fax.(06)6347-8986
e-mail osaka@fellow-travel.co.jp

主催：株式会社 **フェロートラベル** ボンド保証会員
国土交通大臣登録旅行業664号 協賛：ウェンゲン観光局・ツェルマット観光局 後援：スイス政府観光局

会務報告

3月理事会

日時 3月9日18時30分～20時30分

場所 日本山岳会 会議室

〔出席者〕平山会長、芳賀、平林、橋本各副会長、藤本、今村、小川、朴元、大蔵、賛田、田村、黒川、鈴木、野口、石田、篠崎、鳥居各理事、内田、一力各監事、宮崎、鰐坂、小倉(董)、重廣各常任評議員

〔委任〕西村常任評議員

〔審議事項〕

1 平成17年度事業計画(案)について 藤本

別紙の如く平成17年度事業計画を決定した。今年は当会創立100周年に当り10月15日「創立100周年記念総合式典」を高輪プリンスホテルで開催し、全国8ブロックでブロック別式典を行う。

(承認)

2 平成17年度収支予算(案)について 橋本

平成14年度以降、会員数の減少にともない、予算を縮小せざるを得ない。また、創立100周年に

あたり、職員の給与も多少増やす必要がある。別紙の如く収支予算を決定した。監事よりバランスシートも添付するよう要求があった。3 次期会長他役員人事(案)について 藤本

①平成14年3月13日の理事会について改正された細則に従って実施する。

②会長、副会長(芳賀副会長を除く)は再選という素案を常務理事会(会長、副会長、常任評議員を含む)で作成し、評議員会に提出する。また理事については手続きに従い、4月の理事会に計ることとする。(承認)

4 100周年事業について(ルーム改修他) 小川

ルーム改装案が、現集会室をサロンとして、104号室を会議室にする形で提案された。(別紙参考)

①概略の予算はわからないか。

②現集会室の改装に2千万円かかったと聞いたが、それをこわして新たにサロンにする案はコストパフォーマンスの点からいかなものか。

などの発言があり継続審議となった。

5 理事会議事録署名人について 藤本

文部科学省に提出する理事会議事録署名人を小川武、朴元鍾徳の両理事に決定した。

〔報告事項〕

以下の件が担当者より報告された。

1 会報「山」3月号の内容について 今村

トップ記事は100周年の推進状況についてである。

2 支部事務局担当者会議 藤本

2月19～20日、支部事務局担当者会議を行った。事前にアンケート調査を行い活発な議論をした。

支部員数2916人、会友756人、会費は2075円/年であり、分水嶺調査も60%完了した。

岩手支部が点の調査になりそうなので、近くの支部や同好会の協力が必要か。支部の最大の問題は高齢化である。今回の会合で費用110万円がかかった。(詳細別紙参照)

3 山岳資料および写真の書籍掲載許可願について 藤本

昭文社 書籍『アルプス登山ガイド』

4 海外トレッキング企画の進行

状況について 黒川

現在、申込者28人で大変厳しい。担当各社が保有する顧客層にも周知をはかる。また「山」へ有料広告を掲載し、あわせて記念事業への協賛とする。総合記念式典とのオーバーラップをさけるため一部日程を変更した。

5 特殊切手発行の件 藤本

日本郵政公社は、5月2日に登山・山岳の切手を発行する。この切手の発行については「本年10月の社団法人日本山岳会創立100周年にちなみ」と記入されており、有効に利用していただきたい。

6 その他

①有志募金について 橋本

有志募金の依頼状を準備した。それぞれ知人の方には一言書き添えてほしく、持ち帰って記入の上、発信して欲しい。

②大学募金について 藤本

現状別紙の通り。関東は竹内、神崎、関西は平林で担当する。

③自然保護の集い 篠崎

4月9日～10日、高尾の森で実施する。各理事の出席をお願いしたい。

INFORMATION



イラスト 宇都木慎一

◆探索山行「北方系植物観察と四阿山登山」

科学委員会

最近会員の中にも野草に関心のある人が増えているなか、本州では菅平でしか見られない奇草のツキソウ（天然記念物）の観察と中央分水嶺上に位置する四阿山に登山します。

日時 6月18日(土)～19日(日)

行事 ①講演会 ②四阿山登山
講師 徳松征二氏（筑波大教授）

予定

費用 1万8千円

集合 JR池袋西口芸術劇場前

宿泊 電通大宇宙電波観測所内

定員 先着20名

申込 6月1日までに氏名、会員

番号、連絡先を明記し、ハ

ガキかFAXで井上希夫宛

(〒171-0051 豊

島区長崎1-27-11 FAX 03

1395514401

*申込者に詳細案内を送ります。

◆100周年記念講演会

「山での救急蘇生を考える」

医療委員会

「登山の救急医療ハンドブック」発刊記念として、講演会を行います。1月の突然死シンポジウムの続編です。

日程 7月4日(月)

午後6時30分～8時30分

場所 東京体育館（JR千駄ヶ谷

駅前）

講演者 志賀尚子、恵秀彦 他

定員 120名（定員に達し次第

締め切り）

参加費 資料代500円

申込 6月20日までに氏名、会員

番号、連絡先を記入のうえ、

FAX、メール、ハガキで

以下まで（〒102-000

81 千代田区四番町5-

4 日本山岳会医療委員会

FAX 03-3261-4441

✉ jacintmed@yahoo.co.jp)

問合 FAXかメールで野口いづみ

(FAX 0424-631-2871

✉ jacintmed@yahoo.co.jp)

◆「花の栗駒・鳥海山登山」

事業委員会

湿原の花々を愛でながら矢島口より鳥海山に登り、栗駒山は須川温泉から周回登山、新宿より往復貸切バスを使用。

日時 7月16日(土)～18日(祝)

集合 16日午前7時30分 新宿

解散 18日午後8時30分 新宿

宿泊 猿倉温泉及び須川温泉

定員 25名

費用 3万9千円(宿泊、交通費)

申込 6月12日までに氏名、住所

年齢、会員番号、電話・F

AX番号を明記し、植木淑

美宛（〒195-0005 3

町田市能ヶ谷町1151-

54 FAX 042-734-114

98 ✉ yoshimi-210

@snie.odn.ne.jp)

*申込者に詳細案内を送ります。

◆海外スキー「ニュージーランド」

事業委員会

夏に南半球でスキーを楽しむ

日程 9月3日(土)～10日(土)

交通 (往路) 成田→クライスト

チャーチ (復路) クライス

トチャーチ→オークランド

成田(空港)ホテルは専

用車利用)

宿泊 クイーンズタウンのホテル

費用 25万5千円

定員 10名(催行最低人員)

申込 6月末日までに住所、氏名

年齢、会員番号、電話・F

AX番号を明記し、ハガキ

かFAXで山崎浩子宛（〒

236-0033 横浜市

金沢区東朝比奈1-65-3

FAX 045-782-871

2)

*申込者に詳細案内を送ります。

◆「雪岳山紅葉山行」

事業委員会

「韓国」雪岳山主脈トレッキング

日程 10月6日(木)～10日(月)

交通 成田→ソウル→寒溪嶺泊

寒溪嶺西北主稜→中青峰→

大青峰→中青峰→小青峰→

喜雲閣山莊泊→恐竜稜線縦

走→馬等嶺→金剛窟→飛仙

台→雪岳泊慰山岩→束草→

ソウル泊→ソウル→成田

費用 13万8千円

定員 20名(先着順)

申込 8月末日までに住所、氏名

年齢、会員番号、電話・F

AX番号を明記し、ハガキ

かFAXで山崎浩子宛（〒

236-0033 横浜市

金沢区東朝比奈1-65-3

FAX 045-782-871

2

◆第8回「森の勉強会」(伊勢神宮の森)の予告。東海・関西・京都・広島4支部と自然保護委員会共催

日本の平地にわずかに残る常緑広葉樹林の中では、神宮の森5500畝が最大です。古代森の面影を残すこの領域で、昨秋とはルートを変えて学習山行をします。

期日 11月19日(土)・20日(日)

集合 現地(伊勢市・神宮会館)定員 8名(共催各支部は別枠)

*詳細は7月号に掲載します。

◆美術クラブ・SUN燦会有志展

会期 7月28日(木)〜8月1日(月) 10時〜19時(初日は12時から。最終日は13時まで)

会場 細川ビル・ギャラリイ葵 港区赤坂1-1-16

TEL 03-3583-8279

最寄駅 地下鉄銀座線・南北線・溜池山王駅下車、⑧⑨番出口より3分。丸ノ内線・千代田線、国会議事堂前駅

⑤番出口より5分。

*入場無料

◆「2005年山行計画」

山想倶楽部

昨年は、アンナプルナトレッキング・槍穂高岳縦走・雨飾山・中

央分水嶺浅間ルート・冬季蓼科山・金峰山と完遂しました。本年度も計画通り登頂する予定です。ぜひ参加してください。

●6月3日〜5日 妙高山、火打山(バス利用)

●9月2日〜5日 剣岳、黒部川周辺

●10月8日〜10日 鳥海山、月山(バス利用)

●12月10日〜11日 天狗岳(忘年会)

●2月10日〜12日 ハケ岳、赤岳

●3月19日〜21日 スキーツアー 新赤倉温泉(バス利用)

問合せは 中川秀利宛 (TEL 03-3990-3222 FAX 03-3990-3274)

✉nakagawa@calls.ne.jp

ルーム日誌 3月

1日 図書委員会 アルパインズ

2日 ケッチクラブ

3日 山岳地理クラブ アルパインズ スキークラブ

4日 100周年記念事業会計監査 フォトビデオクラブ

7日 総務委員会 100周年フ

オーラム委員会

8日 常務理事会 アルパインズ

9日 ケッチクラブ

10日 山岳地理クラブ

11日 山の自然学研究会

12日 資料・映像委員会 アルパインズ

13日 スキークラブ

14日 百年史 事業委員会 山研委員会 インターネット小委員会 九五会

15日 100周年事業委員会 理事懇談会 三水会

16日 科学委員会

17日 山岳地理クラブ

18日 評議委員会 SUN燦会

19日 自然保護委員会 00会 山遊会 アルパインズ

20日 クラブ 雪わり会 三水会

21日 資料・映像委員会

22日 学生部

23日 100周年記念特別募金委員会

24日 100周年記念事業式典委員会

25日 アルパインズスキークラブ

26日 青年部 100周年フォーラム委員会

27日 3月来室者638名

◆編集後記◆

●創立100周年事業の作業がいよいよ大詰めとなってきました。今月号の記事を見ても、全支部会員、同好会なども参加して展開している中央分水嶺踏査の定例報告のほか、ブロック別集会の案内、会員募金の現状報告と御礼などが増えてきました。

●ヒマラヤでは会員公募のマンナスル登山隊が活動中です。平均年齢が60才を超えたシニア隊ですが、全員元気でルートを伸ばしています。毎日の活動状況は、現地からメール送信され、会のホームページにアップされていますが、GPSでの踏査ルートもこまめに更新されています。皆さんもぜひホームページにアクセスし、激励してあげてください。

今村千秋

日本山岳会会報 山 720号

2005年(平成17年)5月20日発行
発行所 社団法人日本山岳会
〒102-0081
東京都千代田区四番町5-4
サンビュウハイツ四番町
TEL 東京(03)3261-4433
FAX 東京(03)3261-4441
発行者 日本山岳会会長 平山善吉
編集人 今村千秋
Eメール:jac-kaiho@jac.or.jp
印刷 株式会社 双陽社